

## 【第1回：産業・経済・労働分野】

- 交通ネットワークについて、東西の線だけでなく、南北の線を強化することが重要。
- 人口減少・少子高齢化により労働力人口が減少する中、生産力の低下により企業経営がますます深刻になるので、手遅れにならないよう現実に向き合う対策が必要。
- 20年後、30年後に、次世代に事業を引き継ぐことを見据え、後継者を大事にする施策が必要。
- 「佐賀には何もない」ではなく、それぞれの地域が自分たちの良いところを全国に発信し、佐賀県を知ってもらうことが重要。
- 人を磨くことで、地域が輝いてくる。また、子どもたちに大人の光り輝いている背中を見せ、地域の良さを教えていくことが重要。
- 佐賀が元気になるには、企業のものづくりや創業を支援していくことが重要。
- もっと佐賀の力を活かせるように、佐賀のヒーロー・ヒロインを掘り起こし、更に佐賀が盛り上がっていくことが必要。
- 小さな企業が10年後には半減するのではという危機感の中、第四次産業革命に呼応して、AIやロボットなどの導入が必要であり、その導入を支援する専門人材の確保が必要。
- 企業誘致や消費地への安定的かつ迅速な供給を図るうえで、高速道路へのアクセスポイントの充実や縦横の交通ネットワークの構築が必要。

- 10年後、20年後に人口を増やしていくためには、そこに住む人たちの生活の場や仕事が必要であり、地域の将来を見通したインフラ整備が必要。
- 空き家を活用した地方移住、古民家の改修、介護等福祉施設などへの用途変更を進めるなどの空き家対策が必要。
- AI等の発展により労働時間を短くなることも推測されるので、倍働いて倍稼ぐような兼業モデルの創出や、多機能化のための教育に力を入れることが重要。
- 中小企業同士が連携し合い、周囲の力を借りて地域課題の解決に取り組み、佐賀県の明日につながるようなことをやっていくことが重要。
- 「まつり」を創出するなど、佐賀の活性化や人口増加に取り組むことが必要。
- 首都圏でのアンテナショップの出店などにより、佐賀の認知度を高めることが重要。
- 人口増加のため、三世代同居で暮らせる環境づくりが必要。
- 県内人材の流出に歯止めをかけるため、県と県内企業が魅力ある情報発信を各方面で展開していくことが必要。
- もっと佐賀を世界に向かって打ち出していく大きな視点が必要。また、海外に出ていく若者にも投資を行うことも必要。
- 佐賀県が発展するためには、東京とその隣県のように、いい意味でもっと福岡を利用していくことが必要。
- 佐賀を盛り上げるためには、みんなでスポーツを盛り上げることが重要。